

プロジェクトタイトル	旭川家具産地における創造的クラフトの創業と成長の意義
プロジェクト代表者	林 松国

1. プロジェクトの目的・概要

日本の地場産業は長期にわたって衰退・縮小傾向にあり、その原因は需要構造の変化と海外輸入品による価格低下、担い手や後継者の不足、産地問屋の企画・販売力の低迷等にあると考えられ、また地場産業研究の歴史が長いものの、既存の産地企業における生産流通構造とその変容に焦点を当てる研究が多く、地場産業における新陳代謝にはあまり関心が向けられてこなかった。

一方、近年多くの産地において、新市場創造を目的とした創造的クラフトの創業が徐々に活発的になっており、それ自体が地場産業に新たな発展をもたらす可能性がある。

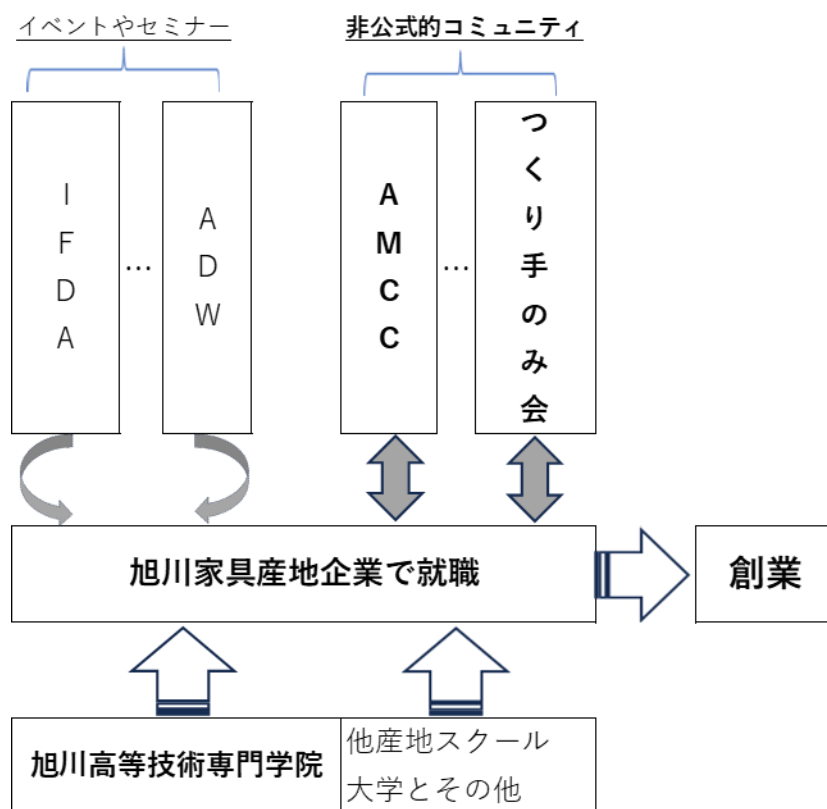
本プロジェクトでは、地場産業における新陳代謝に着目し、その担い手の創造的クラフト誕生の基盤である「産地スクール」、および持続的なコミュニケーションによるイノベーションの創出を目的としたプラットフォームに着目し、実態調査を踏まえて創造的クラフト誕生の条件および成長のプロセスを詳細に検証し、創造的クラフトの役割とその可能性について考察する。

2. 具体的な取組内容

本プロジェクトでは、創造的クラフトとは手仕事による少量生産を基本とし、趣味的工芸の域を超えた創造性と商品性を備えた独自の経済的価値や社会的価値を提供し、自立している小零細の経営体・工房群と定義し、まず、地域産業で新規創業が比較的に多い旭川家具産業を対象に、まずは、地場産業界への参入経路のひとつである「産地スクール」（旭川高等技術専門学院）および学校を修了して起業した経営者をインタビュー調査し、創造的クラフト誕生の条件と成長のプロセスを検証した。

次に、この産地では「旭川木エココミュニティキャンプ」（AMCC）という家具産業関係者（「つくる人」、「かながえる人」、「うる人」、「つたえる人」、「つかう人」）が自主的に構築したプラットフォームが存在しており、その運営に関わってきた委員会のメンバーと当キャンプへの参加をきっかけに創業した経営者にインタビュー調査を行い、持続的なコミュニケーションによるイノベーション創出型プラットフォームの存在と創造的クラフトとの関係性を検証してきた。

図表 1：旭川家具産地における若手職人による創造的クラフトの創出



出所：筆者作成。

主な調査研究の結論として、創造的クラフトは自社の活動領域を北海道に限定するという地域ドメインの設定を行い、それを原点とした価値創造の戦略を展開しているところに基本的な特徴があった。地域ドメインの設定が地域資源の活用および顧客への密着を可能にし、それを基盤に創造的クラフトは質の高い製品（洗練されたシンプルなデザイン、優れた実用・機能性および高い完成度）とサービスを最適価格で顧客に提供している。もう一つのタイプの創造的クラフトは、地域ドメインを原点とした価値創造の戦略を展開しつつ、遠隔消費地の下請的特注業務を積極的に受注して企業化したクラフトであり、事例から示唆されたことは、下請的特注業務と自社製品との相互促進的な発展を実現したことが創造的クラフトの規模拡大と質的発展の両面において重要であった。また事例に共通してみられたのは、経営者の社会的活動が創造的クラフトの価値創造に大きく貢献していることであった。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

1. 林松国（2026）「旭川の家具・木工産地：創造的クラフトの創出基盤と発展のメカニズム」遠山恭司・山本篤民編著『地場産業の新たな担い手創造』第9章、同友館。
2. 学会や旭川市工芸センター・産業界との交流で研究成果を還元していく。